

山科千載記

水告ぐる 時のはじまり 天智ケ森の 傍らに

陶原家 大織冠 山階精舎 興福寺

桓武帝が 眺めせし 都定めの 東山

清水寺と 奥の院 延鎮僧正 田村麻呂

仁明皇后の 安祥寺 東の空に さし昇る

諸羽山の端 月影は 堂宇おぼろに 浮かばせし

あまねく響く 琵琶の音は 心なぐさむ 四の宮

失せししのめ 袖濡らす 小町文塚 小野浅茅

歌詠み 遍照 元慶寺 榧に聞こえし 百夜道

観音めぐる 花山院 大宅離宮 後白河

列子高藤 夜雨契り 氷室池端 勧修寺

連理比翼の その雛は 醍醐の帝を 産みにけり

蓮如守りし 仏国の 栄華を残す 土墨跡

仇討ち目論む 内蔵助 京へと通う 滑り石

明治浪漫を 満々と たたえし 運河 疏水切り

ゆたにたゆたに 有り果つる 流るる水の 尊しや

いと いみじくも 山科の 誇るる郷に 天つ風

千代に 八千代に 六道の辻を 行き交ふ 破魔波と

東西北斗の山並みに かかる紫雲の 遙遙たらん